



平成16年11月5日

各 位

会 社 名 日本シエムケイ株式会社  
代 表 者 名 代表取締役社長 中山 高広  
コ ー ド 番 号 6958 (東証 第一部)  
問 合 せ 先 経 理 部 長 漆 山 健 一  
(TEL 03-5323-0238)

## 固定資産減損会計の早期適用ならびに業績予想の修正に関するお知らせ

当社は本日開催の取締役会において、「固定資産の減損に係わる会計基準」を平成17年3月期において早期適用することを決定したこと、及び最近の業績動向を踏まえ、平成16年8月6日の第1四半期決算発表時に公表した連結業績予想及び平成16年5月21日の決算発表時に公表した単独業績予想を下記のとおり修正します。

### 記

#### 1. 固定資産の減損に係わる会計基準の早期適用について

当社は連結財務体質の健全化を図るため、「固定資産の減損に係わる会計基準」を平成17年3月期において早期適用することとし、平成16年9月中間決算において遊休不動産などの減損処理を行い、連結で22億円、単独で12億円程度の特別損失をそれぞれ計上する予定であります。

#### 2. 17年3月期中間業績予想数値の修正(平成16年4月1日～平成16年9月30日)

(連結)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	58,600	5,600	2,700
今回修正予想(B)	58,600	6,000	2,700
増減額(B-A)	—	400	—
増減率	—%	7.1%	—%
前期(平成16年3月期中間期)実績	56,807	3,531	2,341

(単独)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	45,100	2,500	1,300
今回修正予想(B)	47,700	4,000	1,600
増減額(B-A)	2,600	1,500	300
増減率	5.8%	60.0%	23.1%
前期(平成16年3月期中間期)実績	45,089	1,923	987

3.17年3月期通期業績予想数値の修正(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

(連結)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	116,000	9,300	5,500
今回修正予想(B)	116,000	10,500	4,500
増減額(B-A)	—	1,200	△ 1,000
増減率	—%	12.9%	△ 18.2%
前期(平成16年3月期)実績	115,366	9,240	4,612

(単独)

(単位:百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回発表予想(A)	88,200	4,400	1,500
今回修正予想(B)	91,000	6,000	1,800
増減額(B-A)	2,800	1,600	300
増減率	3.2%	36.4%	20.0%
前期(平成16年3月期)実績	90,718	4,448	996

4.理由

(1)中間期

売上高に関しては、自動車用電子機器向け、及びフラットディスプレイ等のデジタル関連機器向けが堅調に推移しました結果、ほぼ予想通りの売上高となりました。

利益面に関しては、堅調な売上に支えられるとともに、徹底した合理化と高付加価値品への構造転換、中国子会社の前期に引き続き好調な業績に支えられ、予想を上回る経常利益となりました。この結果、当期純利益は固定資産の減損処理に伴う特別損失を吸収して、ほぼ予想通りとなる見込みです。

(2)通期

売上高に関しては、一部デジタル関連機器の需要減少が懸念されるものの、自動車用電子機器向けが引き続き堅調に推移すると思われ、海外も含め全体的な市場の減速感は当初予想の範囲内であると見込めるため、連結での業績予想売上は据え置いております。

利益面に関しては、上期に引き続き徹底した合理化を進め、上期比需要の減少に応じた体制を構築していくことにより、当初予想した下期収益は確保できる見通しでありますので、業績予想経常利益は上期修正分を加えた形で予想を修正しております。但し当期純利益につきましては、既に9月24日公表済みの海外子会社の工場閉鎖に係わる特別損失を、連結で約22億円見込んでおり、固定資産の減損処理と合わせて修正いたします。

(注)上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以上